



こどもでも糖尿病が増えていると聞きました。



糖尿病には大きく分けて、1型、2型という2つのタイプがあります。2型糖尿病は大人に多い病気ですが、こどもだから2型糖尿病にはならないとはいえません。

最近では、社会環境の変化とともに、大人の糖尿病は年々増えていますが、同時にこどもの2型糖尿病も増加しています。とくに発病の低年齢化が進んでいます。茨城県の調査でも、小中高生10万人あたり年間4〜5人が発病します。

1型糖尿病はこどもにも多く、インスリンが全くなくなってしまふ病気ですが、2型糖尿病は、遺伝的な体質に加え、生活習慣の変化による過食や運動不足が長く続いて発病するタイプです。糖をコントロールするインスリンは分泌されていますが、イン

こどもの糖尿病・・・「2型」も増加

スリンの働きが悪くなります。この結果血液の中の糖が常時高くなります。

ただ、肥満以外は自覚症状がないことが多いので、本人、保護者ともに病気になることを理解できずに治療がおろそかになります。治療が必要なのは、血液中の糖が高い状態が続くと、腎臓、眼などに合併症が起こるからです。病気に対する保護者の理解が重要で、それがこどもの治療を左右します。

治療は食事・運動療法が基本です。ただし、今までは治療に良い薬はありませんでしたが、最近新しい飲み薬が開発され、実際に治療に用いられています。こどもの肥満は糖尿病の予備軍。すべての肥満児が糖尿病を発病するわけではありませんが、予防を心がけることが大切です。

〈水戸市中丸町の平野こどもクリニック院長・平野岳毅〉

Q&A



子育て相談室